

整形外科に通院中または通院歴のある患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。当科で骨粗鬆症性椎体圧壊と隣接椎間の脊柱管狭窄症を合併した症例に以下のような低侵襲手術を組み合わせることで行っております。まずは骨折椎体にバルーンを用いたセメント固定術(BKP)、そして脇腹から進入する低侵襲腰椎側方固定術(LLIF)、最後に経皮的椎弓根スクリュー(PPS)挿入術を行います。いずれも高齢者でも体力的に耐えうる小皮切での低侵襲手術であります。この研究は、上記手術治療の有効性を調査することを主な目的としています。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は関西医科大学附属病院研究倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、病院長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》骨粗鬆症性椎体圧壊と隣接椎間に脊柱管狭窄を合併する症例に対する BKP 併用 LLIF の間接的神経除圧効果の検討

《研究機関名・研究責任者》 関西医科大学附属病院・整形外科 助教 谷 陽一

《研究の目的》化膿性脊椎炎に対する MIST 治療の有用性を検討すること

《研究期間》研究許可日～2026年7月31日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

2017年8月1日から2025年8月1日の期間に、骨粗鬆症性椎体圧壊と隣接椎間の脊柱管狭窄症を合併した患者様

●研究に用いる情報の種類

1) 診療カルテと検査情報：診断名、手術術式、臨床所見（年齢、性別、身長、体重、合併症）、骨密度検査結果、各種画像結果

2) 《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での診療情報等の取扱い》

研究に利用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など個人が特定できる情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人が特定できないように安全管理措置を行います。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けていません。従って、研究結果および解析等に外部の企業等からの影響を及ぼすことは無く、患者さんの不利益につながることはありません。また、この研究の研究責任者および研究者は「関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従って、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申請し、その審査と承認を得ています。

*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

関西医科大学附属病院 整形外科 担当医師 助教 谷 陽一

大阪府枚方市新町 2-3-1

電話 072-804-0101 (代表) FAX 072-804-2439